

## 「“星座のもと” ヒアデス」

黄道 12 星座 (星占いや誕生月の星座) には、明るい星が少なく、冴えない星座が多いです。私は 6 月 25 日生まれなので「かに座」ですが、4 等星ばかりで、東京ではまったく見えません。しかも 6 月にはかに座に太陽があるので、6 月にかに座を見ることは絶対にできません。やぎ座、てんびん座、うお座なども、夜空で形を描くのもむずかしい、非常に地味な星座です。黄道 12 星座は、「明るい星のある星座」を選んだわけではなく、たまたま黄道 (太陽の通り道) 上にある 12 の星座をさすものなので、仕方ありません。

そんな黄道 12 星座の中でも、おうし座は突出しています。最も明るい  $\alpha$  星「アルデバラン」は実に赤く、冬の夜空を彩っています。そのアルデバランを V の字の左上にして、V 字型に並んでいるのが、おうしの頭です。その付近には、空の暗い場所ならたくさんの星がちりばめられたように見えます。「ヒアデス」という散開星団です。

散開星団というのは、もともとは同じ星間物質 (主にガス) から誕生した、いわば兄弟星です。従って、太陽系からもほぼ同じ距離にあります。ヒアデスの場合は、約 150 光年の距離です。



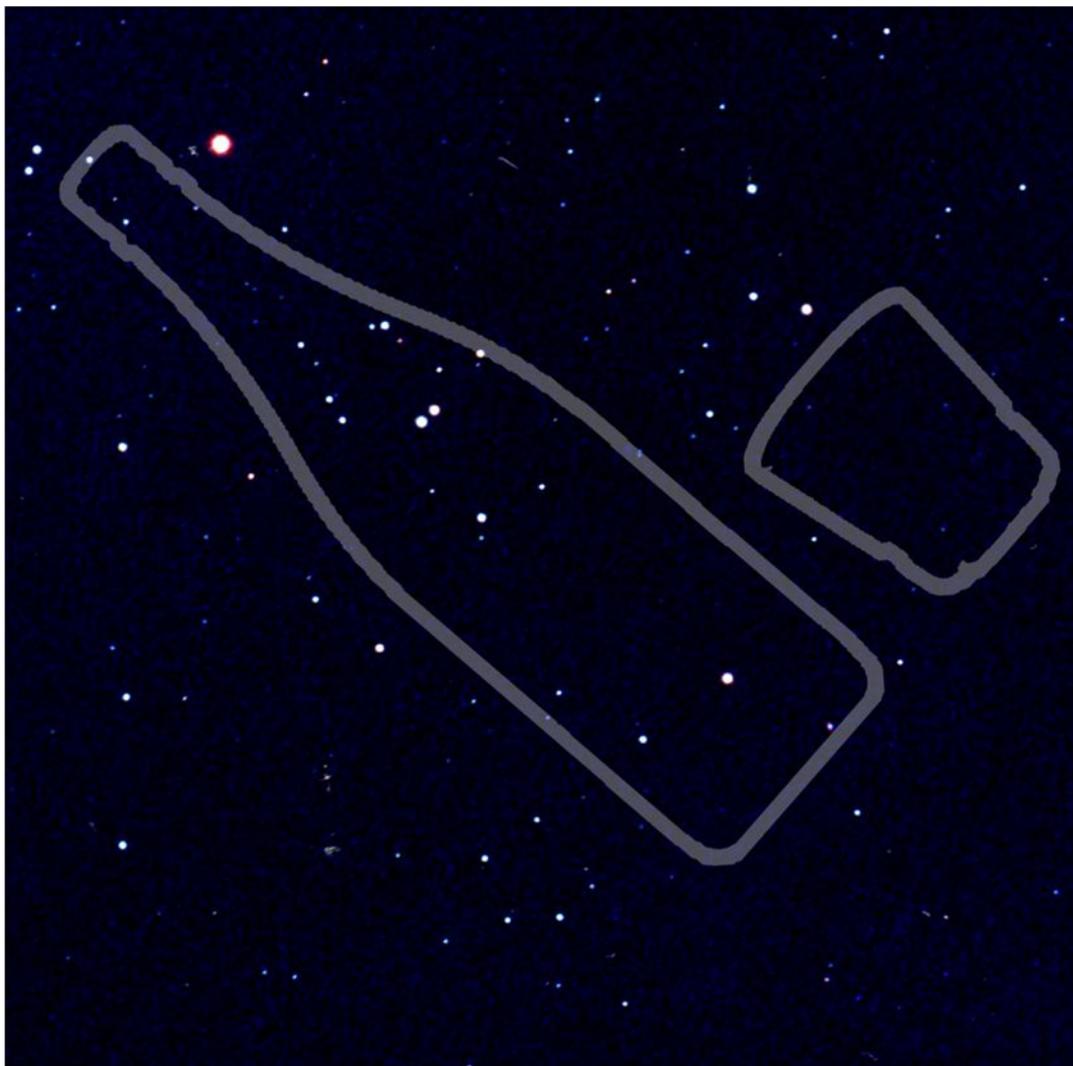
「ヒアデス星団」(おうし座) 北軽井沢で撮影

オレンジ色の輝星がアルデバランです。その周囲の V 字の星の並びに囲まれた、たくさんの星がヒアデスです。冬の星空で肉眼でもはっきり見えますが、双眼鏡観察での好対象の一つです。

ヒアデスを含む「散開星団」は、同じ時期に生まれて、見た目も実際の距離も近い場所にありません。宇宙の恒星は、相対的に秒速何十 km という猛スピードで移動しています。ヒアデスの星々も同時に同じ方向に移動していますが、あまりにも遠いので、1年や2年でその並び方が変わったりはしません。

しかし散開星団は、名の通り少しずつ互いの距離を離し、散開しています。それは個々の星が受ける引力の影響（たとえば「濃い星間物質」の通過）で、向かう方向や速度に差が出るからです。ヒアデスの場合、現在は「おうし座の一部」ですが、将来はずっと広い面積（角面積）を持った、独立の星座になるはずです。現在のヒアデスは、「将来の星座のもと」と言うことができます。

もし5億年後にこの星座の写真を撮ったら、メールで送るか、私のフェイスブックに投稿しておいてください。楽しみにしています。



### 「5億年後のヒアデスの想像図」

「ヒアデス」は5億年の間に散開し、独立した星座「日本酒は“冷やです”座」になります。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)